

			令和5年度行政事業レビューシート				(文部科学省)		
事業名	マテリアル先端リサーチインフラ				担当部局庁	研究振興局		作成責任者	
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定)年度	令和12年度		担当課室	参事官(ナノテクノロジー・物質・材料担当)		参事官(ナノテクノロジー・物質・材料担当) 宅間 裕子	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-				関係する計画、通知等	第5期科学技術基本計画(平成28年1月閣議決定) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)			
政策	9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応				主要経費	科学技術振興費			
施策	9-1 未来社会を見据えた先端基盤技術の強化								
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-07.pdf								
事業の目的 (5行程度以内)	マテリアル分野における最先端設備の有効活用と相互のネットワーク化を促進し、我が国の部素材開発の基礎力引き上げとイノベーション創出に向けた強固な研究基盤の形成を目指すとともに、データを活用した研究開発の効率化、高速化、高度化とマテリアル分野の研究開発環境の魅力向上のため、高品質なデータを創出することが可能な共用体制の整備・充実を目指す。								
現状・課題 (5行程度以内)	マテリアルは、我が国が産学で世界的に優位性を保持する分野だが、近年、新興国の急速な追い上げ等を背景に、データやAIを活用した研究のデジタルトランスフォーメーション(DX)による研究開発の効率化・高速化・高度化と、国内外から優秀な人材が集結するための研究開発環境の魅力向上が重要となっている。そのため、高品質なデータを創出可能な共用基盤の整備・充実と、全国のアカデミアの緊密な連携のもとに産学官が利活用可能なマテリアルデータの蓄積が急務となっている。								
事業概要 (5行程度以内)	本事業では、次の2点を目的としている。①全国25の大学や独法等において、1,000台を超える最先端の研究設備の共用体制を整備し、設備の活用ノウハウとともに提供する。②デジタルデータの創出が可能な設備の導入により、ユーザーニーズに対応した実験データを設備から創出し、専門人材の配置等により、設備に実験データの収集・蓄積した後、解析可能な形への変換を行う。 25機関から得られるこれら実験データはNIMSが管理するクラウドに集約され、産学官での材料分野におけるデータ駆動型研究開発を推進することに寄与する。								
事業概要URL	https://nanonet.mext.go.jp/								
実施方法	委託・請負								
補助率等	-								
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求		
	予算の状況	当初予算(A)	-	306	1,733	1,733	3,049		
		補正予算(B)	2,000	3,606	2,000	909			
		令和5年度第1次補正予算				909			
						-			
						-			
						-			
						-			
		前年度から繰越し(C)	-	1,957	3,606	1,956	-		
		翌年度へ繰越し(D)	▲ 1,957	▲ 3,606	▲ 1,956	-			
		予備費等(E)	-	-	-	-			
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	43	2,263	5,383	4,598	3,049			
	執行額(G)		43	2,257	5,382				
	執行率(%) =(G)/(F)		100%	100%	100%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		2%	58%	144%				
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)				
	(項)		研究開発推進費		重要政策推進枠 1,317百万円				
		(目)	科学技術試験研究委託費	1,726					3,043
		(目)	非常勤職員手当	2					2
		(目)	諸謝金	2					2
		(目)	委員等旅費	2					2
		(目)	職員旅費	1					1
			その他	1					0.1
	計(A)		1,733	3,049					

活動内容① (アクティビティ)		前身事業の「ナノテクノロジープラットフォーム」で構築した全国的な設備共用体制を引き継ぎ、大学や企業等の利用者を対象に、最先端設備の利用機会の提供や高度専門技術者による技術課題解決への最短アプローチの提供などの支援を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		大学や企業等に提供する共用設備群の増加	登録機器数	活動実績	件	－	1,179	1,138	－	－
				当初見込み	件	－	1,000	1,179	1,138	1,138
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	アウトプット「大学や企業等の利用者に提供する共用設備群の増加」の活動指標「登録機器数」を増加させることによって、短期アウトカム「大学や企業等の利用機会の増加」の定量的な成果指標「利用者に対する支援件数(機器利用、技術相談、技術補助、技術代行、共同研究)」の支援内容を、より幅広く充実させることができる。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		大学や企業等の利用機会の増加	利用者に対する支援件数 (機器利用、技術相談、技術補助、技術代行、共同研究)	成果実績	件	－	2,502	2,529	－	
				目標値	件	－	2,440	2,440	2,529	
				達成度	%	－	102.5	103.6	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	短期アウトカム「大学や企業等の利用機会の増加」の定量的な成果指標「利用者に対する支援件数(機器利用、技術相談、技術補助、技術代行、共同研究)」の増加によって利用者間で利用の輪が広がり、中期アウトカム「大学や企業等に提供する支援内容の質の向上」の定量的な成果指標「利用料収入」が増加し、より充実した全国的な設備共用体制を設置することができる。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 9 年度	
		大学や企業等に提供する支援内容の質の向上	利用料収入	成果実績	百万円	－	672	830	－	
				目標値	百万円	－	626	626	830	
				達成度	%	－	107.3	132.6	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	中期アウトカム「大学や企業等に提供する支援内容の質の向上」の定量的な成果指標「利用料収入」を増加させることによって、長期アウトカム「共用基盤体制の整備・充実によるマテリアル研究の加速」の定量的な成果指標「利用者による査読付論文数」を増加させ、我が国のマテリアル研究開発の発展に大きく寄与することができる。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 12 年度	
		共用基盤体制の整備・充実によるマテリアル研究の加速	利用者による査読付論文数	成果実績	件	－	749	692	－	
				目標値	件	－	784	784	692	
				達成度	%	－	95.5	88.3	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容② (アクティビティ)		データ駆動型研究をさらに加速させるため、全国的な設備共用体制をもとに、大学や企業等の利用者を対象に高品質なマテリアルデータの創出を行い、最先端のデータ基盤及びデータ利活用環境を構築する。								
↓										
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		高品質なマテリアルデータの創出のための 共用設備群の増加	登録機器数	活動実績	件	－	1,179	1,138	－	－
				当初見込み	件	－	1,000	1,179	1,138	1,138
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	アウトプット「高品質なマテリアルデータの創出のための共用設備群の増加」の活動指標「登録機器数」を増加させることによって、短期アウトカム「高品質なマテリアルデータを効率的に収集するための共用設備群の増加」の定量的な成果指標「データ構造化機能の搭載が可能な機器の総数」が相対的に増加し、より効率的なデータ収集・蓄積のための環境整備ができる。								
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		高品質なマテリアルデータを効率的に収集するための共用設備群の増加	データ構造化機能の搭載が可能な機器の総数 ※設備から創出される実験データを解析可能な形に変換すること(機種ごとの整備が必要)	成果実績	件	－	138	188	－	
				目標値	件	－	158	158	188	
				達成度	%	－	87.3	119	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	短期アウトカム「高品質なマテリアルデータを効率的に収集するための共用設備群の増加」の定量的な成果指標「データ構造化機能の搭載が可能な機器の総数」を増加させることによって、中期アウトカム「利活用可能な最先端のマテリアルデータベースの共用システムの構築」の定量的な成果指標「データ登録件数」の増加が期待され、マテリアルデータベースをより拡充させることができる。								
成果目標及び成果実績②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 8 年度	
		利活用可能な最先端のマテリアルデータベースの共用システムの構築	データ登録件数 ※令和5年度より、データ登録を開始	成果実績	件	－	－	－	－	
				目標値	件	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	中期アウトカム「利活用可能な最先端のマテリアルデータベースの共用システムの構築」の定量的な成果指標「データ登録件数」を増加させることによって、長期アウトカム「利活用可能な最先端のマテリアルデータベースのデータ利用機会の提供」の定量的な成果指標「データの利用件数」を増加させ、我が国のデータ駆動型マテリアル研究開発の推進に大きく貢献することができる。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 12 年度	
		最先端のマテリアルデータベースのデータ利用機会の提供	データの利用件数 ※令和5年度より、データ登録を開始	成果実績	件	－	－	－	－	
				目標値	件	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		文部科学省調べ								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

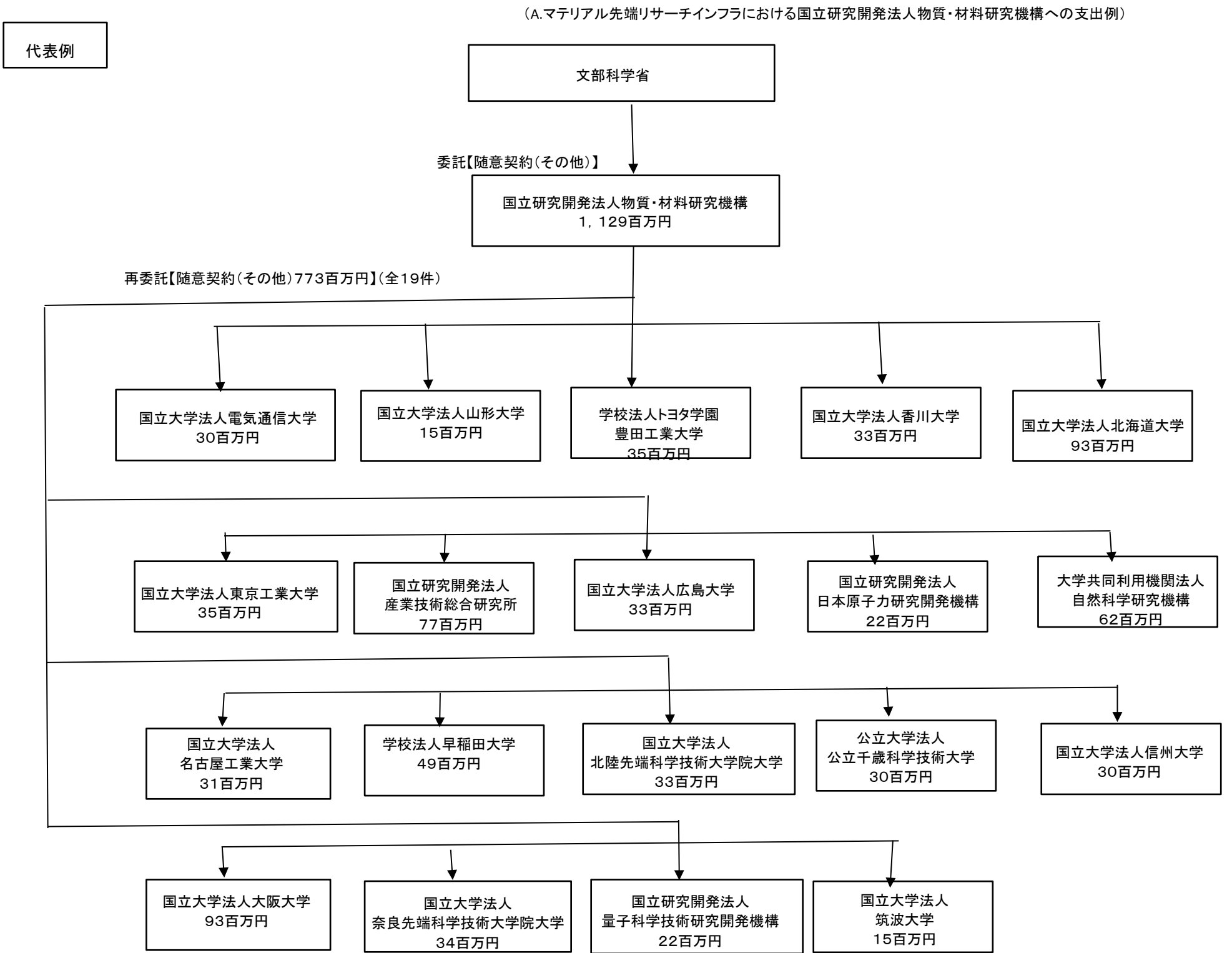
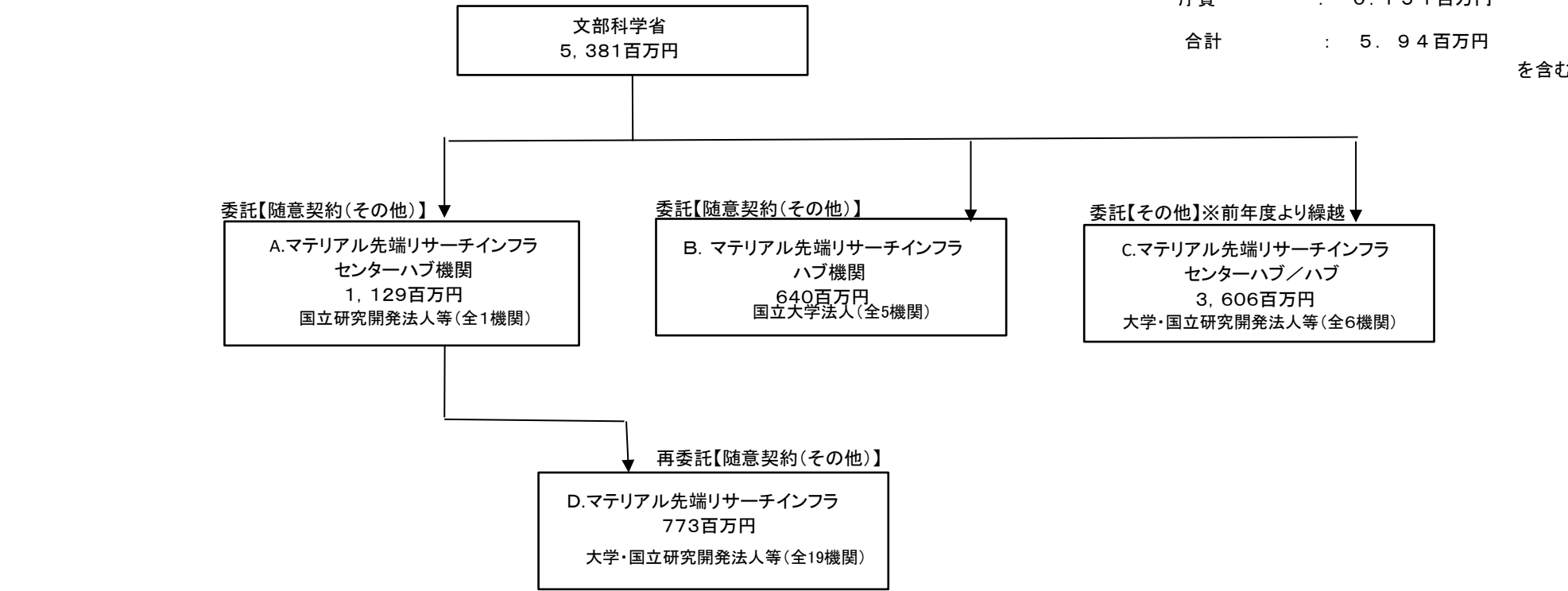
[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

※令和4年度実績を記入。
なお金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

非常勤職員手当 : 1.715百万円
諸謝金 : 1.370百万円
職員旅費 : 0.95百万円
委員等旅費 : 1.754百万円
庁費 : 0.151百万円
合計 : 5.94百万円
を含む



A. 物質・材料研究機構			B. 国立大学法人京都大学		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	業務担当職員、補助者等	586	人件費	業務担当職員、補助者等	108
業務実施費	雑役務費、消耗品費等	408	業務実施費	雑役務費、消耗品費等	30
設備備品費	設備備品費	33	一般管理費	直接経費の10%	14
一般管理費	直接経費の10%	103			
計		1,130	計		152
C. 物質・材料研究機構			D. 国立大学法人北海道大学		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
設備備品費	設備備品費	2,150	人件費	業務担当職員、補助者等	54
一般管理費	直接経費の10%	215	業務実施費	雑役務費、消耗品費等	30
			一般管理費	直接経費の10%	8
計		2,365	計		92

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人物質・材料 研究機構	2050005005211	マテリアル先端リサーチインフ ラ(センターハブ機関)	1,129	随意契約 (その他)	-	-	-

B

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人京都大学	3130005005532	マテリアル先端リサーチインフラ(ハブ機関)	151	随意契約 (その他)	-	-	-
2	国立大学法人東京大学	5010005007398	マテリアル先端リサーチインフラ(ハブ機関)	147	随意契約 (その他)	-	-	-
3	国立大学法人東海国立大学機構	3180005006071	マテリアル先端リサーチインフラ(ハブ機関)	126	随意契約 (その他)	-	-	-
4	国立大学法人東北大学	7370005002147	マテリアル先端リサーチインフラ(ハブ機関)	108	随意契約 (その他)	-	-	-
5	国立大学法人九州大学	3290005003743	マテリアル先端リサーチインフラ(ハブ機関)	108	随意契約 (その他)	-	-	-

C

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人物質・材料 研究機構	2050005005211	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	2,365	その他	-	-	-
2	国立大学法人東北大学	7370005002147	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	295	その他	-	-	-
3	国立大学法人京都大学	3130005005532	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	282	その他	-	-	-
4	国立大学法人東海国立大学機 構	3180005006071	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	276	その他	-	-	-
5	国立大学法人九州大学	3290005003743	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	236	その他	-	-	-
6	国立大学法人東京大学	5010005007398	契約日:令和4年3月31日 契約方式:随意契約(企画競争)	152	その他	-	-	-

D

[illegible]